



国民の森林・国有林

中部森林管理局

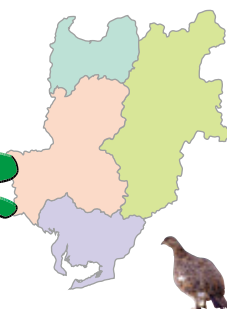
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



式年遷宮御用材伐採式(H17)会場で、三ツ緒伐りについて聞く子どもたち(東濃署)

主な項目	○ 夏休み!子どもふれあいデー.....	P 2
	○ 各地からのたより.....	P 4
	○ 寄稿「森林鉄道の里づくりを目ざして」.....	P 8
	○ シリーズ「森林官からの便り」.....	P 8
	○ シリーズ「ご当地自慢」.....	P 10



【企画調整課】七月三十一日、中部森林管理局において地域の子どもたちを対象に、国有林の役割をはじめ、森林管理局の仕事や、森林・林業・自然の大切さ等を知ってもらうことを目的とした「夏休み！子どもふれあいデー」を開催しました。

今年で二回目の開催となりましたが、近隣の小学生を中心に昨年を超える六一七名の方が来局されました。

今年も実施した「丸太切りに挑戦だ〜」、「マイ箸づくり」、「森の素材でネイチャークラフト」、「金属探知機で



局内でのイベントの様子



囲いワナ付近でカードを見つけた子どもたち

宝さがし！」に加え、新たに「ジェットシューターで山火事を消して！」、庁舎内をスタンプラリーをする「森林管理局クエスト」を企画し実施しました。

「丸太切り」、「木工クラフト」や「マイ箸」づくりは不動の人気を博し、皆さん熱心に製作に取り組んでいました。

「金属探知機による宝さがし」は、箱の中に隠れたボールペンを探知機で探すイベントですが、機器の感知能力に感嘆の声を上げていました。

山火事消火用のジェットシューターのコーナーでは、炎に模した的当てを行い、的が倒れると喜びの声を上げていました。

「森林管理局クエスト」では、担当者ルールを説明すると、皆、真剣な眼差しで聞き入り、ルールどおり、スタンプと森林・林業の問題解決のヒントが書かれたカードを集め、カードを手掛かりにイベント最後のクイズに挑戦していました。

また、昨年幼児などに好評であった「ビノキ玉プール」に加えて「カンナ屑プール」、「アースブロック（カラマツ繊維を使用したブロック）」のコーナーを設置し、常時大人気でした。

中庭では、ニホンジカ被害木や囲いワナを展示し、子どもたちは本物そっくりのシカのデコイに驚いていました。

このほか、くじ引きによる参加者限定のペーパースの製作もあり、「運と実力」を試す楽しいコーナーとなりました。

参加者からは、「去年も楽しかったけど、今年もすごく楽しかった。」「とても楽しかったです、来年も開催してください。」「森林管理局がどのような組織でどのように活動をされているのかよくわかりました。参加して満足です。」等の感想が寄せられ、国有林はもとより、山の楽しさ・森林の大切さ・木の良さ等をPRできた有意義な一日でした。

今年、国民の祝日「山の日」と「信州山の日」制定記念の関連イベントとして開催し、長野県・日本郵便（株）信越支社・酒井産業（株）様にご協力いただきました。この紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。

国と県が更に連携を密に！
平成二十六年度
岐阜県・愛知県林政連絡会議

【名古屋事務所】七月二十八日、岐阜県庁において、平成二十六年度岐阜県・愛

知県林政連絡会議が開催されました。

冒頭、中部森林管理局山元次長及び岐阜県林政部高井次長、愛知県園原森林保全課長から、開催にあたっての挨拶があり、その後、中部局、岐阜県及び愛知県から今年度の事業概要等について説明がありました。



挨拶を行う山元次長

また、国有林からは、主伐・再造林、植栽計画、木材の生産販売、ニホンジカ被害対策、温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組、森林共同施業団地等について、岐阜県からは、合板工場、木質バイオマス発電施設及び大型製材工場の整備、林業事業体育成等について、愛知県からは、森林環境税の取組、林業事業体育成、愛知県におけるバイオマス発電所に関する情報等について報告があり、意見交換が行われました。



会議の様子

平成二十三年から始まった当連絡会議ですが、各種事業等の連携も相まって年を追う毎に国と県の距離感は確実に近くなってきたと感じています。今後も更に連携を密にしていくことを確認することができた会議となりました。

建築士会等と国有林現場視察会

木材利用促進と川下・川上の連携強化

「名古屋事務所」八月六日、飛騨森林管理署管内の高山市マツ谷国国有林外において、愛知県木材組合連合会、愛知県建築士会及び中部地方整備局の方々を対象として、国有林現場視察会を開催しました。

この視察会は、「愛知県は木材の流通・加工の一大拠点にも関わらず、木材

関係者は実際の山の状況や現場を知らない人も多いんじゃないのか。」との木材組合関係者の声があったことから、昨年度、愛知森林管理事務所管内の段戸国有林で初めて開催し、今回が二回目となります。



伐木・造材等の作業現場の様子

今回は、木材の流通・加工を担う木材組合の会員三五名の外、木材利用促進の面からは実際に建物の設計・施工を担当する方々の理解と協力が必要との観点から、愛知県内で設計・施工を行う愛知建築士会、国土交通省中部地方整備局の皆様にもご参加いただき、岐阜森林管理署や名古屋事務所職員を含め六八名の参加を得て実施しました。

当日は、時折雨が降る天候でしたが、田尻飛騨署長や署担当者からチェーンソー・スイングヤーダ・プロセッサ・フォワーダによる伐木・集造材システムの作業状況や低コスト・高効率作業への取組について説明を行いました。

参加者は、普段なじみの無いチェーンソーによる立木の伐採、スイングヤーダによる集材、プロセッサによる造材などを、デジタルカメラやスマートフォンで撮影しながら興味深く視察し、一つの作業が終わると拍手も起こるなど、進化した機械化林業に感嘆の声が上がっていました。



山土場で説明を聞く皆さん

参加者からは、「この機械はいくらするののか。」「傾斜何度まで登坂できるののか。」「二日の作業時間は。」「伐採は全てチェーンソーか。一日何本位伐るのか。」等の質問のほか、建築士の方や中部整備局の方々からは「木材利用について相談したり、智慧を借りたい。」「木材利用の関係で緊密に連携していきたい。」などの声もありました。

このほか、中間土場の活用状況、オークヴィレッジでは加工から建築まで国産材を使った手作り・こだわりの住宅建設や木工家具作りなど、生産から消費までの一連の工程について見学を行いました。

また、参加者のほとんどは、国有林や実際の森林・林業については馴染みがないことから、国有林の概要、公共建築物等木材利用促進法、木材利用ポイント、山の日制定記念分収造林などについても説明したり、DVDの視聴なども交えながら、理解を深めてもらいました。

参加者からは、「いいものを見せてもらった。」「また、こうした機会を作って欲しい。」「もっと、川上のことを教えて欲しい。」「など、川上への関心の強さが聞かれました。

今後も木材の一大集積地・消費地にある名古屋事務所として、多くの川下の方々とのつながりを深め、川下と川上の連携強化を図り、木材の利用促進に向けて取り組んでいきたいと考えています。

各地からのたより

上高地「あがりこサワラ」

説明看板設置

【中信署】日本有数の山岳景勝地である上高地、現在ここを訪れる多くの観光客はJR松本駅からバスに乗り換えて梓川沿いに国道一五八号線で島々(しましま)〜沢渡(さわんど)〜中ノ湯と進み、釜トンネルを抜けて上高地へ入ります。他にも、いくつかの登山道が北アルプスを越えて上高地へ至りますが、その中でも最も古くから上高地へ続く登山道が島々谷から徳本峠(とくごうとうげ)を越えて上高地に至る二〇^{キロメートル}に及ぶ信濃路自然歩道です。



上高地へ続く登山道と「あがりこサワラ」の説明看板

以前、風景紀行九十「古道島々明神線」でも紹介しましたが、島々〜島々谷



奇様な樹形の「あがりこサワラ」

（岩魚留(いわなどめ)〜徳本峠へと続き白沢沿いに上高地の明神池付近へ至るこの道は、江戸時代には松本藩の御用柚(ごようすま)によって上高地内のヒノキ・サワラなどを伐採搬出するため頻繁に利用されるようになりました。近代以降になると日本近代登山の祖として知られるイギリス人宣教師W・ウエストンや小説家の芥川龍之介などがこの道から上高地へ入ったとして多くの人に知られることとなりました。現在でも、趣のある古道として山岳愛好家や地元小学生の登山行事に利用されるなど多くの人に親しまれています。

さて、この信濃路自然歩道を島々側から歩いて一時間三十分ほどすると、「あ

がりこサワラ」と呼ばれる奇様な樹形のサワラがひとときわ目につきます。「あがりこ」というのは、もともと東北地方の方言で、地上二〜三メートル付近で多くの枝を分岐させたブナの樹型を指し、新潟県北部から山形県にかけてのブナ二次林に見られます。薪として利用するためにまだ雪の残る時期に伐採し、そこから萌芽した幹を繰り返し伐ることによって形成されると言われています。中信森林管理署管内では、松川村の馬羅尾(ばらお)国有林内にあがりこサワラの群落があり、「安曇野まつかわ馬羅尾高原郷土の森」として保護されています。馬羅尾国有林のあがりこサワラ群落には現在一三本のサワラがあり、八〇〜一〇〇年前に伐採施業の利用ピークがあったと推定されていますが、信濃路自然歩道のあがりこサワラは本数も少なく、いつどのようにして現在のようなかたちが形成されたのかは分かっていません。

中信署では、このあがりこサワラを多くの登山客に知ってもらうため、平成二十六年六月に説明看板を設置しました。

時代ごとにその用途を変えてきた信濃路自然歩道は、今なお上高地へ至る古道として多くの人に親しまれています。あがりこサワラがつくる林内の様相は、この道を歩く人に古くから続く上高地の森林と人とのつながりを感じさせてくれます。

「飛騨白山白川郷自然休養林」で 施設整備の支援活動

【飛騨署】七月二十四日、一般社団法人名古屋林業土木協会荘川支部の会員九名が、飛騨白山白川郷自然休養林において施設整備の支援活動を行いました。この活動は、同協会荘川支部の社会貢献活動の一環として平成二十年から毎年行っているもので、今回で七回目となります。

平成二十四年には、自然休養林保護管理協議会と同協会の間で、オフィシャル・サポーター制度に基づいて『白山白川自然休養林「白水の森」整備等に関する支援協定書』が結ばれています。

また、本自然休養林については、地域からの「地元に着目し愛される名称に変更を」との要望を受け、本年四月に「白山白川」から「飛騨白山白川郷」に改めたところです。



「飛騨白山白川郷自然休養林」 標柱建込み作業

今回の施設整備は、例年実施している遊歩道・駐車場の草刈り、遊歩道周辺の枯損木処理、危険区域への立入禁止措置（グリーンロープ張り）に加え、木製標柱の建込み作業を行いました。

自然休養林の活性化に取り組みたいとする地元活動の高まりを受け、飛騨署として、新たな名称による施設の整備を図るため、木製標柱（太さ四〇センチ、長さ四メートル）三本を準備しました。この標柱の建込みを、同協会荘川支部の方々に行っていました。



作業に参加された皆さん(前列中央 田尻署長)

当日は、時々激しい雨に見舞われる生憎の天気となりましたが、草刈りでは、お互いに声を掛け合い安全に作業を進めました。木製標柱の建込みについては、トラッククレーンやミニバックホーなど

を使って手際よく進め、予定した作業を全て終えることが出来ました。

夏休みに入り、自然休養林はキャンプや登山を楽しむ方々で賑わいます。地元での支援活動によって自然環境の保全や安全で快適な利用が確保されています。自然休養林の活性化に向けて関係者が一丸となって取り組みたいという地元の熱意が感じられました。

「岩村城跡」の清掃作業

【東濃署】七月二十六日、女城主の里として名高い恵那市岩村町にある「岩村城跡」の清掃作業が行われ、地域の各種団体（商工会岩村支部、消防団岩村分団等）、岩田中学校と恵那特別支援学校高等部の生徒、市職員など約二五〇名が参加しました。これは地域の方々が毎年行っている行事で、今年も岩村森林官か



清掃作業の様子

らの呼びかけで、東濃署からも署職員、治山事業所主任、森林官、森林技術員が初めて参加しました。

壮大な石垣を誇る「岩村城跡」は、標高七一七メートルの城山の山頂一帯に大規模な城郭を構え、日本三大山城（他に備中松山城、大和高取城）の一つにあげられています。また、平成十八年には、戦国の山城遺構がよくのこる優れた城跡であることなどから岐阜県から岐阜城と並んで「日本一〇〇名城」に選定されています。

城跡を囲むように所在する岩村国有林は市街地からの眺望も良く、平成五年に地域のシンボルとして貴重な自然環境、優れた森林をまもり、併せて地域の振興に資することを目的として「いわむら郷土の森（四七・八六杉）」を設定し、その保全に努めているところです。

夏の行楽シーズンへ向け気持ちよくお客様をお迎えするため、三十五度を超える猛暑の中で草刈りなどが行われ、熱中症にならないよう浴びるように水分補給を取りながらのとても大変な作業でした。

作業終了後は、市職員が講師となって「お城についてのミニ勉強会」が開催され、子どもたちは地域の貴重な財産について学びました。郷土の森を管理している東濃森林管理署についても紹介され、国有林の役割などを知っていただく機会となりました。

また、行事終了後、「いわむら郷土の



挨拶を行う間島署長

森」連絡協議会のメンバーと現地での意見交換を行い、「大変な作業に参加いただき有り難うございました。」と声をかけていただきました。これからも、地元と共同して、地域が大切になっている自然環境などの保全に努めていきたいと考えています。

旧帝室林野局木曾支庁を

復元・公開

【木曾署】木曾町では、平成二十二年に旧森林技術第一センター庁舎及び敷地を中部森林管理局から買い受け、昭和二年当時の状態に復元する工事を進めていましたが、この度、工事が終了し、七月十九日に復元された旧庁舎の開館式が開催されました。

この庁舎は、元宮内省帝室林野局木曾支局の庁舎で昭和二年五月に発生した木曾福島町の大火で焼失したために同年十二月に再建したものです。材料の多くは、当時希少だった輸入木材が使われ、被災後わずか半年後に完成しており、地元では当時の帝室林野局の権威を示すものといわれています。なお、この大火では帝室林野局から被災者救済に六千石（約一、〇〇〇立法¹）の木材が無償供与されたとの記録があります。



復元された庁舎

戦後、昭和二十二年からは、林政統一により新設された長野営林局の庁舎として使用されており、森林鉄道や集材機の導入などの林業の近代化や長野県周辺の御料林、国有林野の管理経営の拠点となってきました。昭和三十一年からは福島営林署等として使用され、八十年程度

の長期に亘る林野行政の歴史を積み重ねてきました。

町の教育委員会によると、庁舎の復元は、建築当時の設計図や写真を参考に進められ、間取り、局長室の壁板、照明器具、扉の金具などの形状、色、質感の再現にこだわったとのこと。



復元された局長室

庁舎の一階は郷土料理の研究など木曾の暮らしぶりを体験する空間として利用され、二階に木曾の森林や動植物の剥製、標本、木曾支局の業務等を物語る資料が展示されています。

開館の準備には、木曾町で暮らす国有林の先輩方が多数参加されており、開館日当日も丸太切り体験や周辺の散策ガイドで活躍していました。

木曾町が買い取ってからの、町民の署名活動を経て庁舎を復元、活用することになりましたが、昭和二年当時に設置されていた四つの帝室林野局支局庁舎の中で

唯一、残されていくことになり、木曾の国有林野行政と木曾町の住民との関わり

の深さを感じます。木曾町においての際は、是非お立ち寄りください。（月曜日は休館日となっています。）

「高瀬渓谷フェスティバル」

【中信署】国土交通省及び林野庁では、国民の皆さんに森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等のもっている自然豊かな空間や社会生活にはたしている役割について理解を深めていただくことを目的として、毎年七月二十一日から八月三十一日までを「森と湖に親しむ旬間」として定めています。



熱心に作品を作る子どもたちと制作した作品

中信森林管理署では、旬間に先駆けて七月十九日に行われた大町ダム見学イベントである「高瀬渓谷フェスティバル」に参加し、丸太切りや小木工品作りのブースを構えて、体験することにより森林に親しんでいただき、併せて国有林のPR活動を行いました。

当日は曇天模様ではありましたが、ダム湖クルージングに歓声をあげたり、大町ダムカレーを堪能したりと、小学生を中心とした家族連れでにぎわいました。当署のブースにおいては、早くも夏休みの宿題の工作づくりとも思える力作の児童も見受けられました。また、子どもたちに交じって熱中するお母さんの姿もあり、楽しい三連休の初日がかがわれた一日でした。

「生物多様性の保全」を考える

乗鞍岳で署内研修

【飛騨署】七月三十日、乗鞍国有林において署職員を対象とした「野生生物保護管理研修」を実施しました。研修は、野生生物の適正な保護及び管理の必要性、人間は野生生物とどのようにつきあうべきか、乗鞍岳の野生生物の種の現状等について乗鞍グリーン・サポート・スタッフの取組から学ぶことを目的として実施し、一六名が参加しました。

研修の内容は、乗鞍岳の山容（火山・地勢・池等）、鳥類（ライチョウ・ホシガラス等）、動物の被害（イノシシ等）、

植生（垂直分布、帰化植物、高山植物等）など多岐にわたりました。乗鞍岳は山麓から山頂にかけて、典型的な垂直森林帯（山地帯・亜高山帯・高山帯）が分布しています。この垂直的な植物社会の変化を確認しながら、乗鞍スカイライン周辺で見られるシラベ等高山樹種とハイマツの立ち枯れの原因についてを議論しました。



条線砂礫の説明を受ける（富士見岳）

桔梗ヶ原（標高二六五〇m）では、イノシシによる被害や掘り返しの痕跡を確認しました。周辺ではニホンジカの出現も確認されており、今後、高山生態系への被害対策や人への被害を未然に防ぐ対策を強化していく必要があります。また、海外から持ち込まれたセイヨウタンポポが、人間の社会活動に伴ってハ

イマツ帯まで侵入し、ミヤマタンポポの生育環境を脅かしています。研修では、ミヤマ・セイヨウ・ハイブリッドの違いを学習し、在来種以外のタンポポ駆除活動を実施しました。

この他、高山性鳥類のホンガラスがハイマツの種子散布（種子食鳥類の貯食行動による分散）の主役となっていること、クロユリの花粉を運ぶのはハエで花の独特な悪臭がハエを呼び寄せていること、山頂付近等で見られる条線砂礫の構造土の成り立ちなど多くを学びました。



セイヨウタンポポの駆除を終えて

林野庁は「保護林制度等に関する有識者会議」において、現在の保護林の設定状況や保全管理状況における課題等を点検・整理することとしています。原生的な森林生態系からなる自然環境の維持や動植物の保護等のために、現状を知るこ

と人材を育成することは重要であり、この研修を今後に活かしていきたいと考えています。

福島県の子どもたちが 木曾ヒノキ備林を見学

【東濃署】七月三十一日と八月一日、福島県の小・中学生が木曾ヒノキ備林（中津川市、加子母裏木曾国有林）を見学しました。

東日本大震災で被災した福島県の子どもたちの心のケアをしようと、中津川市加子母地区で七月二十日から八月十九日まで行われているリフレッシュキャンペーン（主催：一般社団法人aichikara（愛知県））に参加した児童・生徒九六名のうち、小学四年生から中学一年生までの四八名が二日間に分かれて、国有林を訪れたものです。



森林の説明を聞く子どもたち

当日は、樹齢三百年を超える木曾ヒノキの巨木など裏木曾の自然を満喫してもらおうと、東濃森林管理署、岐阜県恵那農林事務所及び中津川市加子母総合事務所の職員が先生役を務め、子どもたちを案内しました。



木曾ヒノキの巨木に感嘆！

子どもたちは、ヒノキヤトチノキなどの巨木の迫力に驚いた様子で、特にシンボルとなっている「二代目大ヒノキ」を見上げて歓声をあげていました。

また、ヒノキとサワラの見分け方を教わると、早速、林内を散策しながら「あれはヒノキ、こっちはサワラかな」と樹木識別にとりかかりました。さらに、遊歩道を進みながら、トチの実、朴葉、クロモジの木などを見つけては一心に観察していました。

子どもたちからは、「歩くのは大変だったけれど、とても楽しかった。」との感想が聞かれました。今後とも、国有林が地元の様々な活動のお役に立てるよう、県・市とも協力して、取り組んでいきたいと考えています。

民国連携のシステム

販売スタート

〔木曽署〕八月六日、木曽森林管理署数原土場へ民有林のカラマツ材が初搬入されました。この取組は、七月二十四日に中部森林管理局と木曽森林組合、木曽官材市売協同組合、林ベニヤ産業株式会社と締結した「民国連携した林産物の安定供給システム協定」に基づくもので、木曽森林組合を民有林材供給者、木曽官材市売協同組合と林ベニヤ産業株式会社が共同の需要者と位置づけています。民有林材と国有林材がロットをまとめて協調出荷することにより、安定取引や有利販売が可能になり、民有林の森林整備の促進が期待されています。



搬入されるカラマツ材

なお、数原土場は、昨年八月に締結した「木曽谷流域森林整備推進協定」に基づき、本年七月から木曽官材市売協同組

合に土場の一部を貸付し、民有林材を扱うことができるようにしており、民国連携の販売・流通対策の拠点（中間土場）として活用することになっています。

数原土場は、貯材面積が二三、八〇〇平方メートルあり、カラマツ人工林が多く分布している木曽谷北部に位置し、国道一九号線に近く大型トレーラーの乗り入れも容易であること等の流通の合理化に適した条件を備えています。今般の民有林材の搬入により、民国連携の姿が国有林の土場でみられるようになりました。



数原土場の様子

今回のシステム協定数量は、木曽森林管理署が四、二一〇立方メートル、木曽森林組合が三、〇〇〇立方メートル、民国合わせて七、二一〇立方メートルを予定していますが、今後は二〇、〇〇〇立方メートル以上を目標として、木曽産カラマツの産地化による付加価値を高め、地元の森林や産業に還元してい

くことを目指しています。

寄稿

かつて木曽ヒノキや天然広葉樹を運出し、地域住民に愛され続けてきた森林鉄道に関する思い出や楽しい出来事などを、OBの皆様から、ご寄稿いただきました。国有林の歴史を示す貴重な財産としてここに掲載させていただきます。

森林鉄道の里づくりを目ざして

元長野局人事課 大家 幸雄氏

王滝森林鉄道は沿線住民から「軽便」と親しまれ生活に欠かせない交通機関でもありました。昭和三十四年四月、長野営林局へ赴任する時、特別仕立ての列車で田鳥駅から送られたことが軽便乗車最後となり懐かしく思います。「王滝森林鉄道廃止三十周年を機に森林鉄道復活保存活動はじまる。」

新しい村づくりに向けて有志が集い協働事業で村営の松原スポーツ公園に約二キロの周回軌道を建設することになり、先ず啓発活動として「森林鉄道フェスティバル」を計画し第一回目を平成十七年五月に開催しました。

原動力は林鉄愛好グループ「りんてつ倶楽部」によるディーゼル機関車等の修復と支援であり、有志によるボランティア

活動で軌道布設が始まりました。また、全国に呼びかけ協賛者からの寄付金と長野県の「地域発・元気づくり支援金」を活用し事業を進め、その努力が実り軌道延長約一、〇〇〇メートルに達し公園の周回まであと五〇〇メートルとなりました。

平成二十五年十月は「第四回フェスティバル」を開催し、森林鉄道体験乗車会も企画したところ全国から千人を超す参加者があり森林鉄道に大きな思いと期待を感じました。

平成二十三年四月、活動の母体組織として「王滝森林鉄道の会（事務局を教育委員会に置く）」を発足しました。

会員は七〇名、枕木募金は七四〇名に及び更に呼びかけをしています。（年会費三、〇〇〇円、枕木募金一口五、〇〇〇円です）

国有林野事業に奉職した者として「温故知新」の思いで「森林鉄道の里づくり」を目ざして活動に参画しているところです。



〔東信署 川上森林事務所〕

首席森林官 松木 邦昭

川上森林事務所は、長野県の東部に位置し、中部森林管理局管内の最東端にある国有林で西は八ヶ岳（白駒の池から赤岳まで）から東は埼玉・山梨県境の甲武

信ヶ岳まで管理しており、国有林面積は約九五〇〇ヘクタールです。

管内には、日本百名山の八ヶ岳（八ヶ岳とは南北に連なる二〇以上の山々を総称して八ヶ岳という）、金峰山（長野県では「きんぼうさん」山梨県では「きんぷさん」と呼ぶ）、甲武信ヶ岳（甲州（山梨県）、武州（埼玉県）、信州（長野県）の境にあるのでこの名となったとの説がある）があり山岳好きの人にはたまらない職場ではないでしょうか。



高見石から望む白駒の池

また、管内には、いろいろな日本一がありますので、この機会に一部紹介させていただきます。

最初に、国有林内では、①日本一長い川「千曲川（信濃川）の源流」が甲武信ヶ岳の山頂直下にある。②北八ヶ岳自然休養林内の「白駒の池」は標高



本沢温泉露天風呂

二、一〇〇メートル以上に位置する日本最大の天然湖。③国内の温泉としては最も標高が高い二、一五〇メートル地点に湧出する秘湯・本沢温泉等があります。

国有林外では、①JR鉄道最高地点（標高一三三五メートル）がある。②JRの駅のなかで日本一の標高にある野辺山駅がある。（なんとJRの駅の標高の高さベスト一〇のうち九つが小海線にある）③川上村は高原野菜の代表、レタスの栽培面積・生産量・出荷量が日本一。（本場に畑の広さが凄い、かつてはカラマツ苗木の一大生産地で北海道はじめ全国各地へ出荷していた）④野辺山宇宙電波観測所の電波望遠鏡の口径四五メートルは世界最大級となっている等、一部を紹介してみました。⑤よくみるとほとんどが標高に関するものであることに気づきます。事務所もかなり標高の高いところにあるの

で、現在は涼しくて快適に生活していますが、来る冬期間の生活に一抹の不安があります。

そんな管内は、北八ヶ岳自然休養林等の森林レクリエーション資源が豊富にある八ヶ岳（茅野市側は、南信署の管轄）を管轄しているため、森林管理業務が中心となっております。



JR鉄道最高地点の標柱

八ヶ岳には、貴重な高山植物が多く生育していますが、近年ニホンジカによる食害被害が酷く、南北八ヶ岳保護管理運営協議会等と連携し防護柵や電気柵を設置し保護活動を行っており効果を得ています。しかし、この問題はニホンジカそのものの頭数が減らないと解決しないと感じています。

最近の業務としては、赴任したばかりですので管内を把握するため案内マップ等に記載されている登山道をすべて歩いてみようとしてGPSを片手に積極的に林野

巡視を行っておりますが、特に森林管理業務は現場の状況把握が重要と考えています。

これからも、安全で明るく・楽しく・元気をもっとうにがんばっていきたいと思います。こちらへお出かけの際は是非事務所にもお立ち寄りください。



八ヶ岳(にゅう)から望む富士山

行事・会議等の予定

◎防災訓練

9月2日 中部局

◎長野県西部地震復興三〇周年シンポジウム

ウム

9月18・19日 木曾町ほか

◎森林作業道現地検討会

9月24～26日 中信署管内



奈良井宿

◆中山道奈良井宿
 長野県塩尻市に中山道木曾十一宿中、最も賑わった奈良井宿があります。その繁栄のさまは「奈良井千軒」とも呼ばれるほどで、鳥居峠上り口にある鎮神社を京都側の端に、奈良井川沿いを緩やかに下りつつ約一キロにわたり家並みが続いています。

江戸時代や明治時代の建築物が立ち並び、往時の面影を色濃く残す奈良井宿は、昭和五十三年に国の重要伝統的建造物保存地区（重伝建）に選定されています。



鎮神社

【鎮神社】
 元和四年、奈良井宿に疫病が流行り、これを鎮めるために下総国香取神宮から経津主神を招き祭祀を始めたといわれています。



高札場



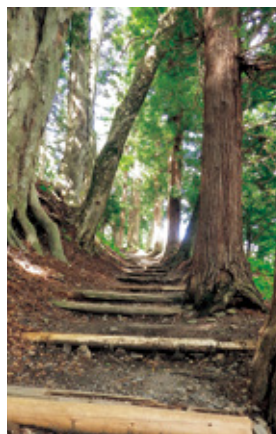
水場

重伝建に選定され三十六年が経ち、これまで修理修景が行われ江戸の宿場町を肌で感じる町並みとなりました。江戸時代の形式をとどめた家で、現代の生活が営まれておりますので、ゆっくり町を歩いては如何でしょうか。

◆木曾平沢（漆工町）
 木曾平沢は、慶長三年に奈良井川の左岸にあった道が右岸に付け替えられたことを契機に周辺から移転し集落が形成されていったと考えられています。この道は



観音像



中山道と杉並木

【杉並木と二百地蔵】
 塩尻方面よりの旧中山道では、杉並木が旧街道の面影を良く伝えており、胸高直径五〇センチ以上の杉、一七本を数えま

また、明治初期の国道開削・鉄道敷設の折に奈良井宿周辺から集められた千手観音・如意輪観音などの観音像があります。

アクセス方法
【公共交通機関】
 奈良井宿…JR中央西線奈良井駅下車
 木曾平沢…JR中央西線木曾平沢駅下車
【自家用車】 中央自動車道伊那IC（国道三六一号線経由で約四十分



木曾平沢の町並み

中山道の一部として整備されました。近世には、奈良井宿の在郷として位置づけられ、檜物細工、漆器の生産で生計を立ててきました。

このような近世状況から木曾漆器が大きく発展したのは、明治初期に地区内で「錆土」という下地材が発見されたことにより産業としての基盤が確立し、漆工町として発展してきました。

これらの歴史的景観と漆工という伝統工芸の職人町として木曾平沢は、平成十八年に国の重伝建に選定されました。裏通りや小路を歩き表通りでは発見できない魅力に気づいてください。